

広島県民いきもの調査 ハチ干潟観察会報告

主催：広島県環境県民局 自然環境課、協力：広島大学竹原ステーション



ハチ干潟観察会 生きた化石カブトガニを見に行こう！

2019年8月31日（土） 14:00～17:00

竹原市の賀茂川河口周辺にあるハチ干潟で観察会を開催しました。この干潟には多くの希少な生きものが生息しています。また、カブトガニの繁殖地として知られています。暑さの厳しい夏の午後にもかかわらず12名が参加し、カブトガニの幼体などの貴重な生きものを観察することができました。



広島大学竹原ステーション



集合場所は広島大学竹原ステーションです。観察会は、大塚攻教授、近藤裕介助教の指導のもとに行われました。また、学生スタッフのてきぱきとした対応が印象的でした。

まずは、講義室でガイダンスと「ひろしま県民いきもの調査」の紹介です。

広島県では生物多様性保全の取り組みとして県民参加型の調査を実施し、生態系の変化に注目しています。「ひろしま県民いきもの調査」は環境省がインターネットを利用して管理する「いきものログ」を活用して情報を集めます。「いきものログ」への登録や投稿など、その使い方を説明しました。

今回の参加者には年配の方が多く、「いきものログ」は少しハードルが高いかと不安でしたが、参加者の皆さんは熱心にメモをとっていました。



「ひろしま県民いきもの調査」の説明をするスタッフ

続いて、大塚先生の講義です。カブトガニという生きものの特異性、その生態や生活史、さらに干潟保全の重要性について詳しい話を伺いました。大塚先生のカブトガニへの熱い思いが参加者に伝わり、フィールド観察への期待感が高まります。



カブトガニの標本を使って解説する大塚教授



熱心に話を聞く参加者の皆さん

講義終了後、車に分乗してハチ干潟の入口まで移動しました。近藤先生と学生スタッフの先導で干潟へ向かいます。川に沿って進んでいくと、その先にハチ干潟が広がっています。入口の橋から干潟まではちょっとした難所がありますが、それがかえって自然観察会の気分を盛り上げます。



崖を下り、川のなかを歩いて、干潟に向かう参加者



16時から干潟での観察が始まりました。この日の干潮は16時半くらいです。

大塚先生から干潟の生物の観察のポイントや注意事項などが説明されます。その間にも、近藤先生と学生スタッフが観察ポイントを探しています。

カブトガニの発見の声に参加者のテンションが上がります。その後、説明を聞きながら広い干潟を散策します。大きさ（年齢）の異なるカブトガニの幼体が見つかりました。これは、ハチ干潟が繁殖地として十分に機能していることを示しています。成体は藻場などに生息しますが、産卵のため干潟に戻ってきます。



さっそくカブトガニの幼体を見つけた近藤先生

干潟には、カブトガニだけでなく、ハクセンシオマネキやスナガニといった希少なカニも生息しています。また、砂茶碗と呼ばれるツメタガイ（巻貝）の卵塊やタマシギゴカイの糞など、一見すると奇妙な生きものや生息痕を観察することができました。



砂の中に潜っているカブトガニ



カブトガニの幼体



大塚先生が参加者の皆さんに干潟の生きものについて説明しています。実際に干潟に立って、あらためてハチ干潟の価値と保全の重要性の話がされました。野外で生きたカブトガニを見ることで、参加者全員が生きものとそれを育む干潟の大切さを実感することができました。



観察したカブトガニの幼体は、大きくなって再び会えることを期待しながら元の生息場所に返しました。